

【議事】

(4) 宇宙航空研究開発機構の取り組みについて

JAXA の川上伸昭 経営企画部長が資料1-4 を説明した後、以下の質疑応答があった。

有信：先ほど、目論見違いとの発言があったが、会社だと3年を見た中期経営計画を立て、毎年ローリングをかける。宇宙の場合には毎年というわけには行かないだろうが、適当な周期で見直しをする必要があるだろう。

青江：5年毎に見直すことになっているが、変化の発生に合わせるのも一考であろう。その辺り、兼ね合いであり見極めが難しいところ。

茂原：前回の計画立案から今までの間に、視点が変わってきている。安全保障とか外交の切り札としての見方も重要である。また、縦割りから横断的な取り組み方に変化させなければならない。

西尾：資料1-2（文科省の作成した宇宙開発政策）と1-4（JAXAの実施計画）で、目的が4項目示されているが整合性が無い。また、掲げた目標に対して評価をする必要があるが、評価がされていない。

23ページの中身は比較的わかるが、これは技術のロードマップなのか？ 宇宙開発全体のロードマップだとすると、この描き方は余り良くない。

青江：方法はこれから考えるが、対比するようにしたい。また、後者のロードマップであるが、JAXAが自分たちの役割部分を自主的に書いたものである。

西尾：国の方針に沿って作られなければならないので、対比を意識して（JAXAの計画を）作らなければならない。

川上：国の方針に沿って作成したものであり、（項目毎に説明を始めたが、良く受容れて貰えずに中断）

西尾：予算2500億円のうち人件費はどのくらいを占めるのか。あまり大きな比率ではないと思うが。

川上：JAXAの予算は1800億円で、そのうち人件費は150億円である。

立川：（青江部会長に促されて）JAXAは国の方針に沿ってロードマップを作っているつもりである。何処が解りにくいのか、具体的に示していただけるとありがたい。

西尾：日本の宇宙開発には期待をしている。日本はフロントランナーの時代を迎えており、ビジョンを掲げ、その下で開発を行うべき。ビジョンの大元が資料1-2の①から④に抽象的に書かれており、資料1-4の23ページのロードマップの何処に相当するのかがぱっと読み取れるように描かれている必要がある。

立川：ビジョンの基本的考えは、従来の研究開発型から少し利用を取り入れようとの作戦であり、「安全で安心な社会の構築」と「国民の豊かさや質の向上」がそれに相当する。これを（JAXAロードマップの）1に掲げた。「知的財産」は4に相当する。JAXAのビジョンに対し、委員会でご議論いただき、ご指導いただきたいと思っている。

青江：西尾委員のご意見は計画の作り方に対するものであろう。例えば「国民の豊かさ」を宇宙開発で具現化するプログラムを示し、そこで目指すこと成し遂げることをはっきりさ

せ、あとはプロジェクトという形でJAXAが実施する。この道筋がはっきり見えるように作れとっている。

西尾：おっしゃるとおり。そうやって作られたあと、国民に対する説明として、①から④までに纏め上げる作業が必要である。²

米倉：自分のように宇宙の外の間人から見ると、「宇宙を凍結して例えば燃料電池を」と考えたくなる。最初に宇宙ありき³のように見える。今迄のことを踏襲しただけでは、無駄遣いになってしまう。「自分たちは宇宙先進国の一角で、大国より少ない予算で、80点主義でやっている」ように映る。

青江：「最初に宇宙ありき」からなかなか抜けきらないのは確かであろう。しかし、茂原さんの発言にあったように、安全保障、外交の切り札としての位置付けを考え、国家戦略の中に宇宙を位置付ける議論を次回以降させていただき

² 異議あり。そんな細々したことをやったら、官僚の作業ばかりが増えて、その手伝いでJAXAが忙殺され、本業の技術開発に時間が割けなくなる。本末転倒である。

³ 青江部会長が回答しているが、安全保障と外交の観点から「宇宙ありき」が生まれる。経済的側面ばかりを強調し、経済的効果を性急に求めるので、おかしい議論になる。予算規模が小さいのであるから、安全保障と外交の観点で論ずべきものは漏れの無い選択をし、慎重でゆっくりした進捗を図り、経済的観点で論ずべきものは、かなりの漏れを容認しながら、選ばれた対象に絞り込んで、大胆・迅速に進捗を図るのが良い。為政者は均衡が取れた両睨みをして頂きたい。

たい。⁴

小池：前に決めた計画に問題があったとしたら、それを発表して欲しい。また、総合科学技術計画との関係についても、理解し易い対比をお願いしたい。更に、安全性・信頼性本部ができて変わった点、つまりわれわれが安心してデータを使えるようになるのとどのように繋がるのかが知りたい。

青江：1番目と3番目は次回までに整理したい。2番目のことは、変わらないと思っていただけると良い。宇宙関係者が考えていたことの 하나가、総合科学技術会議で国の基幹技術と定められた⁵。

森口：全てに言えることであるが、選択と集中である。限られた資源の中で何をやっていくのか、ご議論いただきたい。

茂原：先を考えなければと言うことであるが、評価が欠けている。過去5年間の実績に対する評価を纏めていただき、それを見ながら先を考えさせて貰いたい。

青江：JAXA レベルの問題でなく、政策レベルの問題で計画がずれる。外部要因が多い。

⁴ 正にそのように期待するのではあるが、「国家戦略」「宇宙政策」「宇宙開発計画」の用語の定義があやふやな現状を見ると、何処まで期待できるものやら。

⁵ 筆者には奇異に映る。総合科学技術の埒外に各分野の計画があるのでは、統制が取れていない。と言って、総合科学技術会議が取り上げてくれない計画は一切進められないのも窮屈に過ぎる。根本原因は総合科学技術会議の計画が細かすぎることにあるのだと思う。

茂原：そうではあるが、外部要因と言いつつには困る。きちんと整理したほうが良い。

大森：ロードマップを書くといつまでに何を達成するのかが明確に示せる。これが分かりにくいのが現状である。

中須賀：JAXA は利用を重視すると言うが、何が起こったのか良く見えてこないのが、何を具体的にやっているのかを説明して欲しい。

川上：JAXA は技術のロードマップを作っている。何々に使われるとか利用されるとか書きたいのではあるが、開発だけを任されているので伝わりにくくなってしまう。

何が変わったかを説明するのは難しい。未だに手前のところに居るものが残っているのではと思っている。技術開発に止まっていることが問題かと思うが、JAXA に対する希望が伺えればありがたい。

中須賀：成果が利用されなければやらなくて良い。宇宙研のように熱心な人々で成り立っているのは参考にできる。本当に熱心に、少ない予算をしゃぶるように開発に取り組んでいる。宇宙を使いたいと強烈に思った人が動ける環境を作ることが大切である。

中須賀：(JAXA が取り組む教育活動の対象に) 大学院と小中高はあるが、大学が欠けている。大学が日本の宇宙開発に貢献していくための人材育成を考えているのだが、この委員会の中でも議論していただければありがたい。

青江：利用のところまで含んだ計画にするのも一考である。

JAXA も技術一辺倒ではないが、まだまだ十分ではないし、ある種限界があるかもしれない。政府の問題なのかもしれ

ない。計画の中での扱い方も課題の一つである。

小池：少しギャップがあったものが、本当に使いたい人が参加できるようになってきたところだと思う。AMSER は期待できる。海洋宇宙観測探査システムが国家基幹技術になり、省庁が連携し、コミュニティが成熟することを考えて行きたい。

青江：山田さんは気象予報士として気象衛星のデータを利用されているのですが、ご意見は？

山田：こんなにたくさんの衛星があるのに驚いた。私は「ひまわり」しか知らなかった。こういうことをどれだけ公表して行くのか気になった。

青江：発信しているのに届かないのです。

米倉：それは発信していないからです。

青江：番組で言及していただけるとありがたい。

山田：「ひまわり」で国民の安全に貢献していることを説明できるが、他の部分も具体的に解りやすく書いて欲しい。⁶

松尾：資料1-2は政策を示した二つの文書から抜き出して作ったもので、今度は個々、地震で完結性のある議論にすることが大事だと思っている。また、「宇宙は基幹技術だけで成り立っていないところに問題がある。」と個人的に思っている。

⁶ 部会が「国民の理解を深めたい」と思って議論しているからこのように要求される。「国が必要と認める技術を磨く」ことを第1義とし、「国民の理解が得られればなお良い」と思って広報する位が適当なのではないか。この部会では政策論が欲しい。